



来年の花芽形成は7~8月のこの時期ですので、樹全体に十分な日光が当たるように新梢管理を行ってください。また、多雨が続いています。病害感染などの危険性がありますので、定期散布は必ず実施してください。薬剤防除の際は、SS運転に十分注意を払い、農作業事故の無いよう、防除を実施してください。

今年の一部の園地で凍霜害により着果不良の園地が見受けられます。目通りの着果が不良でも樹上の着果が良好な場合もありますので、樹全体で着果量を確保するようにしてください。

園地の着果状況を必ず確認し、状況に応じて適正着果に努めましょう。

### 病害虫防除

#### 共通注意事項

- 1.隣接園（特に今後収穫期を迎える作物）に飛散しないよう十分注意してください
- 2.散布後は、タンク内や散布器具の洗浄を十分に行ない、薬液が残らないよう注意する。

#### 7月下旬の散布(7月20日~31日頃)

散布薬剤	水	100ℓ	散布日 7月 日 散布量 ℓ
	展着剤	10mℓ	
	オーソサイド水和剤80	100g	(収穫7日前、5回以内)
	劇)オリオン水和剤40	100g	(収穫21日前、1回以内)
対象病害虫	落葉病、炭疽病、すす点病、アザミウマ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類、イラガ類、カキノハタムシガ、ケムシ類、カキノヒメヨコバイ		
散布量	10a当り500ℓ *若木の場合、樹体にしっかり散布できる量を散布する		
注意事項	*昨年、落葉病が発生した園地では必ず散布する。 *オーソサイド水和剤80に代えて、スコア顆粒水和剤(前日、3回)の3,000倍を使用してもよい *オリオン水和剤40は劇物登録農薬です。お求めの際は印鑑をお持ちください。		

## 病害虫防除

### ① 8月上中旬の散布（8月10日～20日頃）

8月はカキノヘタムシガ（ヘタムシ）の重要防除時期となります。芽を食害したあと果実に入るので、芽の食害痕が散見された場合は直ちに防除をしましょう。芽・果柄・ヘタに薬液がかかるよう丁寧に散布しましょう。

散布薬剤	水	100ℓ	散布日	8月	日
	展着剤	10mℓ		散布量	ℓ
	ダントツ水溶剤	50g	（収穫7日前、3回以内）		
	トップジンM水和剤	100g	（収穫前日、6回以内）		
対象病害虫	落葉病、炭疽病、うどんこ病、アザミウマ類、コナカイガラムシ類、カキノヘタムシガ、カメムシ類				
散布量	10a当り500ℓ *若木の場合、樹体にしっかり散布できる量を散布する				
注意事項	*前回から20日以内に散布する。 *アメリカシロヒトリの発生園は、アーデントフロアブル2,000倍（前日、3回）を加用する。				

### ●今後の管理について

\*摘果・・・7月末までには摘果を実施してください。

\*雑草管理・・・主幹害虫対策として、根元は常にきれいにしましょう。  
バスタ液剤（収穫前日まで、3回以内）  
10a当り 水100～150ℓ、バスタ液剤500mℓ

\*乾燥防止・・・敷き草や敷きワラ、かん水を実施しましょう。  
（敷きワラは、根元50cm空けて厚く敷く）